

インフラ関連需要を 確実に成果に結びつけていきます。

Q 現在の状況についてお聞かせください。

今期は、機械事業のうち、産業機械事業は国内復興案件のほか、橋梁、破碎機類が好調で、ロックドリル事業でも復興に



かかるインフラ整備関連の国内需要が底堅く、海外は資源需要低迷が続くものの円安効果が見込まれます。またユニック事業も前期同様好調を維持しています。

グループ全体の売上高は塗料・燃料事業撤退により減収となりますが、営業利益は増益を予想しています。

Q 復興事業に対する古河機械金属の強みを活かした対応についてお聞かせください。

いよいよ今期より本格的な復興事業が動き出してきた感があります。例えば高台移転などの復興市街地整備や、道路・橋梁・トンネル・港湾といったインフラ整備など多岐にわたって計画されています。

当社は元来、国内においてこのようなインフラ整備に関連する製品を有し、縁の下で社会基盤を支えてきました。特殊な技術で高いシェアを持つ当社製品が今後復興事業に多く採用が見込まれるのは、当社が積み重ねてきた歴史と技術、それに総合力があってこそ、と考えています。

Q

既に成果として表れている
 実例はありますか。

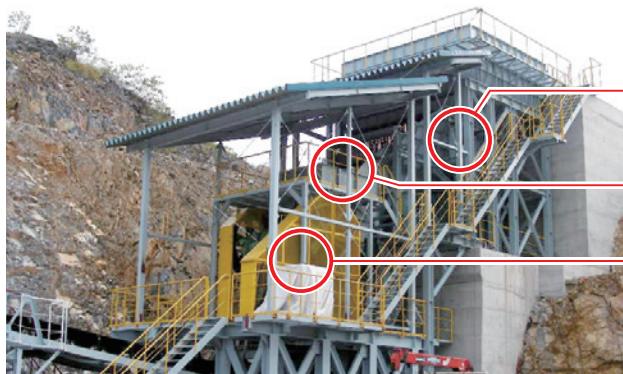
高台移転関連では、岩石の破碎に必要な破碎設備や土砂運搬用コンベア設備を受注しており、破碎機類、ベルトコンベア製品の製造を急ピッチで進めています。また、復興道路・復興支援道路のトンネル工事現場ではトンネルドリルジャンボが稼働中で、今後多数計画されているトンネル工事にお

いても国内唯一のメーカーである当社製品の採用が期待できます。

このほかにも、土木・建設工事に不可欠なセメントや砕石はフル生産が続いており、石灰鉱山や砕石現場では油圧クローラドリルや油圧ブレイカ、破碎機類がこの先長く稼働することが予想され、買い替えや部品需要も見込めます。建設資材の運搬、荷降ろし作業で使用するユニッククレーンも復興事業が進むにつれ稼働台数は増える見込みです。

高台移転関連に使用される製品

高台移転エリアの山を切り開き、そこで出る岩石を破碎する設備



破碎設備

フィーダ、スクリーン、クラッシャなど
 当社の独自技術が組み合わされています。



エプロンフィーダ
 原石を定量で
 引き出す供給機。



スカルパースクリーン
 原石を泥やズリと
 岩石に篩分けする機械。



ジョークラッシャ

数百ミリの大きな岩石も破碎できる破碎機。

嵩上げエリアへ土砂を運ぶコンベア設備



長距離ベルトコンベア

土砂を山から嵩上げエリアへ運ぶ設備。

Q 中長期の取り組みについて お聞かせください。

国内の復興関連需要は今後も複数年は底堅く推移することが予想されます。当社はこうした復興需要を確実に成果に結びつけるとともに、地震に備える国土強靱化計画や老朽化インフラの設備更新などに伴う公共事業にも様々な形で貢献できると考えています。更に東京オリンピック開催が決定されたことや、リニア新幹線や整備新幹線の建設工事も今後予定されていることから、当面国内は当社の機械事業において底堅い市況が続くとみています。

Q 海外戦略についてはいかがでしょうか。

現在停滞気味の資源国や新興国などの鉱山開発やインフラ整備がいずれ復調してくると予想され、需要回復時に即応できるよう営業拠点の充実や顧客の囲い込みなど、営業展開により積極的に取り組んでいきます。

具体的には、海外売上比率が高いロックドリル事業は、特に東南アジア、南アフリカ、中南米の中規模鉱山、セメント各社、ゼネコンをターゲットに油圧クローラドリルの戦略機を拡販していきます。そのほか、油圧ブレーカや鉱山用ジャンボにも注力していきます。ユニック事業は、東南アジアやロシア向けにユニッククレーンの展開を推進するほか、自走して狭い所に入り作業ができるミニクローラクレーンをヨーロッパ同様に用途開拓を進めながら各地へ販売強化していきます。

インフラ整備で使用される製品

トンネルドリルジャンボ

復興道路やリニア新幹線などのトンネル工事で活躍が期待されます。



橋梁

復興関連や国土強靱化計画に伴い橋梁工事も見込まれます。



油圧クローラドリル及び油圧ブレーカ

セメントやコンクリートの原料となる石灰石や砕石を採掘する現場で使用されます。



ユニッククレーン

建設資材の運搬や荷降ろし作業で使用されます。



Q

素材事業についての取り組みをお聞かせください。

次の柱となる新素材開発と事業化に向けて取り組んでいます。既に電子材料事業のコイル製品は同事業の新たな柱として育ちつつあり、今後プラグインハイブリッド車 (PHV) やEV、燃料電池車をはじめとするエコカーを筆頭に、自動車の電子制御化の需要増とともに大きな躍進が期待されています。そのほかにも、引き続き窒化ガリウム (GaN) 基板や熱電変換材料、LuAG 結晶やGAGG 結晶といったシンチレータ結晶の応用展開など開発を進め、事業化を推進していきます。

次なる柱として期待される素材製品

コイル製品

プラグインハイブリッド車 (PHV) やEV、燃料電池車などのエコカーを筆頭に、車の電子制御に不可欠な材料として、ますます需要が高まると予想されます。



GAGG 結晶

ガンマ線検出能力に優れたシンチレータ結晶で、原発事故後の今も社会問題となっている放射線測定のために必要に応えるため、用途開発を進めています。



Q

新社長として株主の皆様へメッセージをお願いします。

2013年6月27日の株主総会後の取締役会にて正式に代表取締役社長に就任いたしました。今後は代表取締役会長に就任しました相馬信義とともに、当社グループの企業価値の更なる向上と発展に努めていきたいと考えています。その過程で必要に応じて流動的に路線の見直しも行き、新しい視点に立った経営計画の策定や、既存のやり方の変革を成し遂げていきたいと考えています。

株主の皆様には、常日頃絶大なるご支援、ご鞭撻を賜っていることに感謝申し上げますとともに、引き続きご理解とご支援を賜りたく、お願い申し上げます。